

第3回 I F N E C 執行委員会会合

近藤原子力委員会委員長 挨拶文（仮訳）

閣下、各国代表団の皆様、ご列席の皆様、

日本国政府を代表いたしまして、ここマラケシュにおいて第3回国際原子力エネルギー協力フレームワーク執行委員会会合をホストし議長をしてくださったモロッコ王国政府に感謝申し上げます。また、ケニア共和国及びバーレーン王国が参加国として本会合に出席され、サウジアラビア王国及びモルドバ共和国が、新たにオブザーバーとして本会合に出席されたことを心より歓迎いたします。

東北地方太平洋沖地震とそれに伴う津波による甚大な被害、及び東京電力福島第一原子力発電所事故の発生から、およそ1年半が過ぎました。

我が国政府は、詳細な放射線モニタリングや大規模な除染を含めた被災地の復興に向けての取組を続けています。東京電力福島第一原子力発電所では、昨年12月に冷温停止状態を達成し、廃炉に向けた長期的な取組を着実に進めています。この機会に、日本政府と日本国民を代表して、ここに至るまでの国際社会から私たちに頂戴した温かい支援や協力に対し、改めて心から感謝申し上げます。

我が国では、広範囲の土地を汚染した東京電力福島第一原子力発電所の過酷事故を踏まえ、国民が安心できるエネルギー構成の実現を目指して、国民的議論の中でエネルギー政策を見直し、中長期的エネルギー・環境戦略の策定に取り組んでまいりました。そして先月、エネルギー・環境会議は、「革新的エネルギー・環境戦略」を決定しました。

この戦略を踏まえて、我が国は、2030年代に原発に依存しない社会の実現を可能にすることを目指し、国際的なエネルギー情勢などの将来展望を慎重に見極めながら不断に検証、見直しを行いつつ、グリーンエネルギーへのシフトと経済成長の確保を両立させるモデルを率先して世界に提示するべく、あらゆる政策資源を投入して参ります。

議長、I F N E Cは、原子力エネルギーについて、各国共通の課題の解決を探り、原子力安全、核セキュリティ及び核不拡散を確保しつつ原子力エネルギ

一の平和的利用促進のために互恵的なアプローチを追求し協力する場を提供する重要な国際的枠組みです。この観点から、我々は、基盤整備WGと燃料供給サービスWGの2つのワーキンググループの活動を、後者による包括的核燃料サービスの討議資料の準備を含めて、高く評価します。

我が国は、大きな原子力事故を起こした国としての責任ある立場から、同事故の教訓を踏まえ、原子力の平和的利用における安全性、核セキュリティ、核拡散抵抗性を世界全体として向上させるため、今後も国際社会との連携・協力を継続していきます。

また、諸外国が我が国の原子力技術を活用したいと希望する場合には、相手国の事情や意向を踏まえつつ、世界最高水準の安全性を有する技術を提供してまいります。

最後に、本年12月、福島県において、事故の教訓・知見をさらに国際社会と共有するため、IAEAとの共催の下、「原子力安全に関する福島閣僚会議」を開催することを皆様にお伝えでき、うれしく思います。数多くの国と関係機関からハイレベルの参加が得られることを期待します。

ご清聴ありがとうございました。